

炭酸ガス要求性 *Staphylococcus aureus* による敗血症の一例

◎清水 綾子¹⁾、高野 稜也¹⁾、岸田 帆乃か¹⁾、安藤 真帆¹⁾、榊原 千紘¹⁾、染谷 友紀¹⁾、藏前 仁¹⁾、中村 清忠¹⁾
医療法人 豊田会 刈谷豊田総合病院¹⁾

【はじめに】 Small-colony-variants(SCVs)は抗菌薬や環境因子などの何らかの影響により、栄養要求性を示すようになった細菌の総称である。SCVsの *Staphylococcus aureus* は通常の *S. aureus* と同様の病原性を持つものの、ヘミン・チミン要求性や炭酸ガス要求性等、その発育性は異なる。今回、血液培養から炭酸ガス要求性 *S. aureus* が検出された一例について報告する。

【症例】60歳代男性。他院より意識レベル低下にて当院へ救急搬送された。仙骨部褥瘡感染からの敗血症性ショックを疑い、救急外来にて血液培養が2セット採取されたのちに、TAZ/PIPCが投与された。その後、誤嚥性肺炎のカバーも含め抗菌薬はVCM及びSBT/ABPCに変更された。

【微生物学的所見】血液培養検査は、21時間で1セットが陽性となった。グラム染色ではグラム陽性球菌を確認し、rapid BAC pro IIを用いたMALDI-TOF MSによる血液培養液からの直接同定にて、*S. aureus* と同定された。また、血液培養液を用いた遺伝子検査により、“MRSA 疑い”として中間報告した。当院のサブカルチャーは、ヒツジ血液寒

天/BTB乳糖寒天分画培地を大気培養、CAヒツジ血液寒天/VCMチョコレート寒天分画培地を炭酸ガス培養している。本症例では、炭酸ガス培養した寒天培地のみ集落の発育が確認できた。そこで、炭酸ガス要求性SCVsを疑い、BD Phoenix M50による薬剤感受性試験に加え、DPS192ixによるドライプレートを用いて炭酸ガス培養する2通りの方法で薬剤感受性試験を実施したところ、炭酸ガス培養でのみ結果が得られた。これらを踏まえて、MRSAと判定・報告した。

【考察・結語】本症例は、血液培養が陽性になった際に、大気培養と炭酸ガス培養両方のサブカルチャーを行うことが有用な一症例であった。また、遺伝子検査を用いMRSAであることを迅速に臨床へ報告することで、抗MRSA薬の早期投与に貢献できた。SCVsに関し栄養要求性は無論のこと、遅発育を示す株も存在するため、適切な培養条件の選択が肝要であると考えられる。
連絡先：0566-25-2951 内線(4310)